

令和6年度第1回行政監査結果報告書（概要）

第1 監査実施概要

1 監査テーマ（P.1）

公園の整備・運営について

2 監査テーマ選定の趣旨（P.1）

板橋区は、「板橋区基本計画 2025」の「若い世代の定住化戦略」の一環として、地域の中で子どもが安心して安全に遊ぶことができる環境を整えるため、ユニバーサルデザインの魅力ある公園づくりに取り組んでいる。

また、「いたばしグリーンプラン 2025」においても、少子高齢化に対応するための子育て支援や高齢者の健康増進、ユニバーサルデザインへの配慮など、誰にでも使いやすい公園となるよう、トイレや遊具、こどもの池等の改修整備を進めている。更に同プランにおける重点プロジェクトとして、あずさわスポーツフィールド、こども動物園及び農業園が既に整備を終え、新たな公園として運営しているところである。

令和7（2025）年度に「板橋区基本計画 2025」及び「いたばしグリーンプラン 2025」が最終年度を迎えるに当たり、これらの計画による取組や整備後の公園の運営状況を検証し、今後の施策に生かしていくことが重要である。

そこで、公園の整備・運営に関する事業は計画的に行われているか、事業に係る経費は効率的に使われているか、計画に対して所期の効果を収めているかの観点から検証を行った。

3 監査の着眼点（P.1）

- （1）公園の整備・運営に関する事業は計画的に行われているか。また、事業に係る経費は効率的に使われているか。
- （2）計画に対して所期の効果を収めているか。

4 監査対象及び監査対象課（P.2）

（1）監査対象

令和5年度までに実施された公園の整備・運営に関する事業

（2）監査対象課

土木部 みどりと公園課

南部土木サービスセンター

北部土木サービスセンター

5 監査実施期間 (P. 2)

令和6年5月31日(金)から令和6年11月29日(金)まで

6 監査委員による聞き取り調査等 (P. 2)

監査委員による聞き取り調査及び現地視察は、令和6年7月9日(火)・10日(水)に行った。

＜現地視察場所＞

徳丸ヶ原公園・こども動物園高島平分園、高島平七丁目公園、赤塚植物園本園・農業園、赤塚七丁目児童遊園、東板橋公園・板橋こども動物園、南板橋公園、四ツ又公園(視察順)

第2 監査結果

現況と課題 (P. 3)

- 1 公園に関する概況 (P. 3)
- 2 公園・公衆トイレの改修整備について (P. 8)
- 3 公園遊具の改修整備について (P. 18)
- 4 「こどもの池」の改修整備について (P. 23)
- 5 公園灯のLED化の推進について (P. 30)
- 6 公園内の傾斜地管理について (P. 33)
- 7 整備後の公園運営について (P. 35)

検討・改善を求める事項 (P. 43～44)

着眼点1 公園の整備・運営に関する事業は計画的に行われているか。また、事業に係る経費は効率的に使われているか。

1 トイレ計画の実効性確保について

トイレの設置については区民の要望もあり、適正な数というものに議論があるところではあるが、限られた予算の中で質の向上を目指す観点から考えると、既設トイレのあり方について踏み込んだ考察を行い、総数の適正化について一層の検討を進めていく必要がある。その際には、現計画で達成が不十分である、周辺の区施設を含めた利用環境やバリアフリー化の状況と併せて考えていかなければならない。

公園・公衆トイレは、区の「公共施設等ベースプラン」の対象施設である。令和8年度からの新たなトイレ計画の策定に当たっては、暮らしやすいまちを実現する経営資源の一つであることを意識して、ファシリティマネジメントの考えに基づきながら、実効性ある内容を検討していくことが望まれる。(P. 14)

2 「こどもの池」のあり方について

中止された場合も開業された時と同額の委託料が支払われることは、費用対効果の観点からは望ましくない。「こどもの池」の運営委託については、仕様書や契約方法だけでなく、委託のあり方そのものについても検討を続けることが求められる。(P. 28)

区の「こどもの池」はプール型であり、安全面の観点から監視員は必須となる。しかし、運営委託している協力会は65歳以上の会員が多く、高齢化・担い手不足の状態であり、近年の猛暑においては、会員自身の安全も危ぶまれる状況である。区は、委託のあり方を検討すると同時に、長期的な視野に立ち、今般の問題(※)が引き続くことのないよう、地域住民の声を十分に聞きつつ、説明責任を果たし、「こどもの池」を「新たな水スタイル」の施設に更新することなどが求められる。(P. 28, 29)

※今般の問題…「こどもの池」は、①利用対象年齢が限られる、②夏季のみの利用である、③地域による運営体制の維持が困難である、④猛暑等の影響により中止・中断する日数が増加している、という問題

着眼点2 計画に対して所期の効果を収めているか。

1 公園・公衆トイレの洋式化とバリアフリー化について

計画として掲載する事項については、適切な現状把握と、それに基づいた指標及び目標値の設定、その目標を達成するために必要とされる取組を設定することが重要である。地域間のバリアフリー化率については、今後も平準化を目指すのであれば、まずは詳細な現状分析を行うことが求められる。(P. 11)

区内の公園・公衆トイレは、依然として和式便器が多く、また、全てのトイレをバリアフリー化するには、現計画のペースでは30～40年かかる計算となる。よって、トイレの洋式化は今後も強く要望されることが予想されるが、限られた予算を無駄にすることのないよう、南部・北部土木サービスセンターは、トイレ計画との調整を十分に行うことが必要である。(P. 15, 16)

2 トイレの表示について

公園は、構造上の問題からトイレの場所や配置がわかりにくいことも多い。トイレの表示については、適切に利用できるよう、誰にとっても見やすくわかりやすい表示を設置することが求められる。(P. 17)

総括意見 (P. 45)

区は、使いやすく魅力ある公園づくりを目指し、グリーンプラン 2025 の「公園の整備とリニューアル」に基づき、時代の要請や地域のニーズを反映した、居心地の良い公園の整備を進めている。公園は、誰もが気軽に利用できる貴重なオープンスペースであり、区のブランド力を高めるためにも、目標達成に向けた施策を一層充実させていかなければならない。

こうした状況を踏まえて総括意見を述べる。

第一に、区は、公園整備に関する各計画の実績を総括し、今後の施策に確実に生かしていくべきである。

トイレ計画や長寿命化計画は、具体的な目標を掲げながら実行されていない、又は達成できなかった事項が見受けられ、所期の効果が得られていると言い難い状況であった。また、トイレの洋式化・バリアフリー化や「こどもの池」の更新に際し、現状把握や将来の見通しが不十分であり、経済性、効率性、有効性の面からの改善すべき事項も数多く認められた。

限られた予算で効果的な整備・運営を行うには、より深い研究が欠かせない。公園施設の質を更に高めていくため、区は、時代が求める新たな要素も取り込みながら、次期計画を策定することが求められる。

第二に、区は、公園に関する効果的な取組を継続することが必要である。

区は、公園遊具の安全性向上や、こどもの池計画の着実な推進、公園灯の LED 化による電気使用量・二酸化炭素排出量の削減など、多くの優れた取組を実施してきた。特にこども動物園については、リニューアルに当たり草屋根と壁面緑化を取り入れて SDGs を体現し、「こども動物クラブ」の活動等により地域活動に貢献するなど、多大な効果を生み出している。

区は、こうした取組を継続するとともに、時代の変化に柔軟に対応し、創意工夫を重ねることが求められる。

令和 5 年度板橋区区民意識意向調査の結果では、「板橋区発展のために力を入れるべき分野」として、「緑・公園・景観」が前回（令和 3 年度）の第 7 位から第 4 位に上昇しており、区民の緑・公園・景観に対する期待が高まっていることが確認できた。

区の効果的な公園の整備・運営により、区民の誰もが快適に公園を利用し、区に愛着を持ち、健康で心豊かに暮らすことのできるまちが実現することを期待する。